

## 組織で取り組む授業研究の工夫に関する研究

### —目標の共有化による「協働する授業づくり」—

県内の各高等学校において、組織的な授業改善の取組が進められています。

組織的に取り組むということは、授業方法の画一化を目指すものではありません。自校の生徒の実態に基づいて設定した、学校の目指す生徒像を実現するための授業の在り方を、学校として探り、日々の授業実践によって、生徒の力を伸ばしていくことです。共通の目標に向けて、教員が互いに学び合い高め合い、それぞれの授業をよりよいものにして、生徒の力を伸ばしていくための取組ということができるでしょう。

総合教育センターでは、「組織的に取り組む」ということを、「協働」という言葉でとらえて授業づくりを考える研究を進めています。協働とは、複数の主体が、何らかの目標を共有し、その実現に向けて力を合わせて活動することです。

この冊子では、教員が互いに協働して授業づくりに取り組むために、目標をどのようにして共有するかについて整理し、調査研究協力校の実践を分析して示します。

目標の共有化が図られているかという視点で各校の取組を見直すことによって、組織的な取組を進めるヒントとしてお役立てください。

平成 27 年 3 月  
神奈川県立総合教育センター

## 高等学校における組織的な授業研究の取組をよりよく進めていくために

学校間で生徒の実態が異なる高等学校においては、各校で「多様化への対応」を図りつつ、すべての生徒が社会で生きていくために必要となる力を身に付けさせる「共通性の確保」を実現する教育活動を展開することが求められています。そのためには、自校の生徒の実態に即したよりよい教育課程を、学校として追究する組織的な取組が必要です。各校において組織的な授業改善の取組が進められているのはこのためです。

教育課程は学校の目標を実現する授業の在り方を示すものであり、授業は、全教員が関わる学校の教育活動です。組織的な授業改善の取組とは、各校で、学校や生徒の実態に即した授業実践を追究することから、ボトムアップ的に、学校全体のよりよい授業の在り方、すなわち、適切な教育課程の在り方を探る試みであると考えられるでしょう。

各校の取組をよりよく進めていくためには、このような組織的に取り組むことの意味や必要性を、理解し、納得して取り組むことが重要です。

### 協働して授業づくりに取り組む —目標を共有する—

協働とは、共通の目標を実現するために、力を合わせて取り組むことです。目標の共有化が図られているかどうか、組織的な取組を進めるための指標の一つと言えるでしょう。

学校の授業づくりに関して共有する目標は、**学校の目指す生徒像・自校の生徒に身に付けさせたい力**です。この目標に基づいて、**各教科・科目で身に付けさせたい力**を検討し、年間指導計画に位置付けて具体的な授業づくりを考えます。さらに、単元の授業を通して身に付けさせたい力を明確化して「**単元目標（学習目標）**」とし、生徒にも示す必要があります。

#### <この冊子の構成>

調査研究協力校の実践から、目標をどのようにして共有するかを整理しました。

各実践事例のページの構成は、右図のとおりです。

タイトル：各校の取組

リード：取組の解説

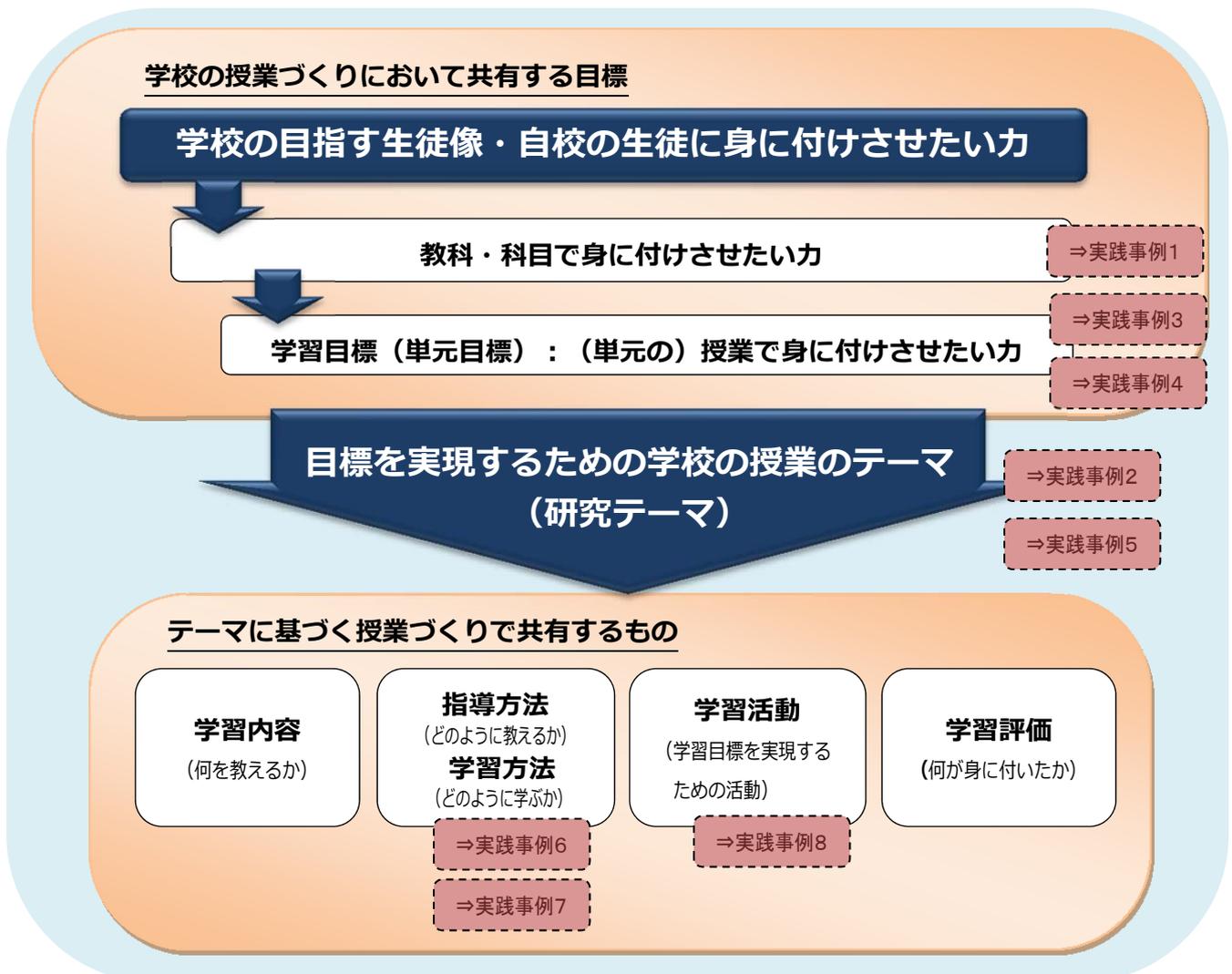
本文：取組の手順

まとめ：取組についての考察

## 研究テーマに基づいて授業研究に取り組む

学校の授業づくりの目標（学校の目指す生徒像・自校の生徒に身に付けさせたい力）を踏まえて、**研究テーマ**を設定して、共有することによって協働を進めます。

具体的には、研究テーマに基づき、教科・科目で、何を教えるか（**学習内容**）を共有することや、どのように教え、学ばせるか（**指導方法・学習方法**）という視点を共有し、目標の実現を目指すという方法があります。また、単元の授業を通して身に付けさせたい力（単元目標）を実現するために有効な生徒の**学習活動**を吟味し、単元の授業に効果的に位置付けることも大切です。さらに、目標の実現状況を把握すること（**学習評価**）についても、授業づくりに位置付け、視点を共有することが大切です。生徒の変容に向けて、何から取り組めばよいかを具体的に認識することが、教員同士が協働して授業づくりに取り組むきっかけの一つとなるでしょう。



## 実践事例 1

### 授業研究を通して自校の「スタンダード」を構築する

各教科の取組を通して、学校として共通に身に付けさせたい学力「自校の『スタンダード』」の具体化を図る。

- 研究テーマを「従来の授業の中に、生徒の能動的な学習を取り入れた授業の実践」「自校のスタンダード構築に向けた授業の実践」と定めて共有する。
- テーマに基づき、各教科で、身に付けさせたい力とその具体的な手立てを検討して授業研究に取り組む。
- 授業研究の取組を通して授業改善を図るとともに、学校として共通に身に付けさせたい学力を明確化し、自校の「スタンダード」を確立することを目指す。

各教科で身に付けさせたい力を意識して授業づくりに取り組むことを通して、目標を見直し、学校として共通に身に付けさせたい力を具体化することを目指します。自校の生徒に身に付けさせたい力を明確化することは、学校や生徒の実態に即した教育課程を編成することにつながります。組織的な授業研究の取組が目指す方向性を示す実践と言えるでしょう。

## 実践事例 2

### 「『考える』生徒の育成」を研究テーマとして取り組む

学校の目指す生徒像を研究テーマとして明確化し、生徒が「考える」場面を意図的に設定した授業づくりに、学校全体で取り組む。

- 校内研修会で研究テーマについて理解を深める。外部講師を研究アドバイザーとして継続的に助言を得る。
- 具体的な授業づくりの工夫について共有する。
  - ・生徒が主体的に活動し、考える場面を授業づくりに意図的に設定する。
  - ・共通様式の単元構想シートに「考える活動」を記載する欄を設ける。
  - ・目標・振り返りの時間を授業に設定する。
- 教科を主体に取り組む。
  - ・思考力を育む授業実践例の作成、思考力を育む学習ツールの考案。

テーマに即して研究に取り組むための、一連の手順や方法、具体的な工夫を示した実践です。校内研修会を効果的に活用し、生徒が「考える」授業を実現する授業づくりのための考え方や具体的な工夫を共有しています。

## 授業評価シート「授業バランスシート 21(BS21)」の開発

実践事例3

教科の授業で身に付けさせたい力を7つの観点で明確化し、授業の目標の共有化を図るとともに、生徒が数値で評価する共通様式のツールを独自に開発した。

教科	英語	科目	コミュニケーション英語Ⅱ	担当者	
----	----	----	--------------	-----	--

事前調査日	2014/11/21	← 入力例	2014/10/1
授業実施日	2014/11/25		

知識	新しい知識を習得する。
技能	読む／聞く／話す／書く の技能を高める。
思考力	既習の文法知識を用いて、文章を正確に読み取ることができる。
判断力	既習の表現を用いて、英語を書いたり話したりすることができる。
表現力	英語らしく読むことができる。
関心	題材に興味を持ち、授業に積極的にかかわろうとする。
意欲	与えられた課題に最後まであきらめずに取り組む。

この授業で伸ばしたい学力の観点	判断力・表現力
-----------------	---------

上記達成のための授業の工夫	判断力… 既習の表現を使い即興で英作文するためのスモールステップを組んだ。 表現力… 英語の音声・抑揚と内容の関わりを意識させて音声指導をする
---------------	--

7つの観点別に合計が21になるように1～5(すべて3は不可)で生徒が記入した数値に基づくレーダーチャート。

--- 日常  
 - - - 理想  
 — 実施授業

日常：日常の授業のバランス  
 理想：自分が身に付けたいと思う力のバランス  
 実施授業：今日の授業のバランス

○自校の目指す「確かな学力」として設定した7つの観点別に、各教科の授業で生徒に身に付けさせたい力を具体的に示す。

○生徒が数値で評価した、日常の授業・理想の授業（事前に調査）及び、研究授業についての観点別のバランスをレーダーチャートにして分析する。

教科・科目で身に付けさせたい力を具体的に示すことで授業のねらいが明確になり、生徒とも授業の目標を共有することができます。学校共通の様式で、授業についての生徒の意識を数値で評価した分析結果を、身に付けさせたい力を指標に把握することができます。

## 共通様式の授業構想シートによる授業づくりに取り組む

授業づくりにおけるRPDCAサイクルを明確化した共通の授業構想シートを用いて、共通の視点で授業づくりを行い、研究テーマの実現を目指す。

授業改善 RPDCA サイクルの記録 (26 年度版) (単元・本時)

平成 年 月 日 科目名 ( ) 授業担当者 ( )

テーマ「生徒に考えさせる授業づくり」とその学習効果の検証及び家庭学習の充実に向けた取組みを行い、自ら学ぶ姿勢を育成する。

○事前 (事前協議の前に RPD を記入し、事前協議で検討)

R Research (調査)	
・生徒の実態と課題	
P Plan (計画)	
・育てたい力	(単元)
→・そのために生徒が行う学習活動	(本時)
D Do (実施)	
・学習活動の準備内容	(単元)
→・評価の方法と場面	(本時)
○事後 (事後協議で検討、事後協議の後で記入)	
C Check (評価)	
・育てたい力の育成状況	(単元)
→・評価規準への到達度	(本時)
A Action (改善点)	
・改善点	(単元)
→・修正方法	(本時)

※事後協議後 C と A を記入し、単元指導案とともに指定されたフォルダに保存。

授業で身に付けさせたい力 (学習目標) を明確化し、目標実現のための学習活動を具体的に設定。

学習目標の実現状況を、評価規準に基づいて評価。

- 学習評価をいかした授業改善に向けて、研究授業の事前・事後協議で活用する共通様式の協議シートを開発。
- 校内での取組が定着し、授業観察等の日常の授業においても活用。

教科・科目の授業で身に付けさせたい力 (目標)、目標を実現するための学習活動、目標の実現状況の評価を記載する共通様式のシートで授業実践を行うことによって、授業づくりの視点ばかりでなく、授業を見る視点の共有化を図ることができます。

## 「生徒が『わかる』授業づくり」を研究テーマとして取り組む

学校の授業研究のテーマを明確化し、共通の目標として定めることで、全校での取組につなげることを目指す。

- 研究の1年目に、中心になって取り組む1教科で単元研究による授業づくりを実践した。
- この取組を各教科へ広げるためには、学校全体で授業づくりについての共通の目標を持つことが重要であることが認識され、2年目には各教科での検討を踏まえて、学校の授業づくりのテーマを設定した。
- テーマに基づいた研究授業を各学年で実施した。全教員が参観し、学年別の分科会で協議を行い、テーマの実現状況と、自校の生徒に身に付けさせたい力について検討した。

学校全体で共有する目標が、全校での取組を進めるためには欠かせないということ、実践を通して実感した事例です。協働には目標の共有化が不可欠であることを示していると言えるでしょう。

## アクティブ・ラーニングを取り入れた授業づくりに取り組む

研究テーマ「自学力の育成」を実現するために、生徒が主体的に取り組む授業づくりの工夫について、校内研修会を活用して理解を深め、学校全体で取り組む。

- 年間の研究計画に校内研修会を計画的に位置付け、研究テーマ「アクティブ・ラーニング」について理解を深める。
  - ・外部講師による教員対象の模擬授業
  - ・外部講師による生徒対象の模擬授業
  - ・外部講師による講義と質疑応答
- 各教科でアクティブ・ラーニングを取り入れた研究授業を実施し、研究発表会で振り返りを行うとともに今後の課題を明確化する。

学校の目指す生徒像を実現する授業の在り方として、学校全体で共通に取り入れる「学び方」（学習方法）を明確化して、具体的な方策を校内研修会で共有することで、実践につなげています。

## 生徒の「学び合い」を取り入れた授業づくりに取り組む

研究テーマを踏まえ、授業における生徒の学び方(学習方法)について共有し、授業づくりにいかす。

- 研究テーマを「生徒同士の学び合いによる学力向上」「生徒の学習活動と授業展開の工夫」「生徒に身に付けさせたい力の明確化」と設定して共有する。
- テーマの一つ「学び合い」について理解を深める校内研修会を実施。指導主事を講師として、授業実践の映像資料に基づいて「学び合い」を取り入れた授業づくりについて理解を深める。
- 研究テーマに基づく公開研究授業を実施し、事後協議で振り返りを行う。

生徒が主体的に取り組む学習方法や、効果的な指導方法について、具体的な実践を見て共有することで取り組みやすくなります。テーマを反映した授業のイメージや具体的な手立てを共有し、授業づくりにいかすことができます。

## 言語活動を単元に位置付けた授業づくりに取り組む

身に付けさせたい力(単元目標)を実現するための学習活動として、言語活動を授業に効果的に取り入れることに、学校全体で取り組む。

- 校内研修会を活用して単元研究について理解を深め、学校全体で取り組む。
- 単元研究の授業づくりの成果として、思考力の育成を図ることを目指す。
  - ・授業に基礎的・基本的な知識・技能を活用する場面を設定すること＝言語活動の充実に学校全体で取り組む。
  - ・単元構想シートに基づいて、教科で事前に協議して、単元に言語活動を位置付けた研究授業を全教科で実施。事後に、生徒に授業についてのアンケートを行い、成果を振り返る。

授業を通して身に付けさせたい力(単元目標)を実現するために有効な生徒の学習活動を吟味し、単元の授業に効果的に位置付けることは、授業づくりで最も大切にしたい視点です。この視点を共有し、全校での取組につなげています。